



平成 28 年 10 月 20 日

各位

東京都港区海岸一丁目15番1
株式会社DNAチップ研究所
代表取締役社長 的場 亮
(コード番号：2397 東証第2部)
問合せ先：総務課長 大塚 勉
電話番号：03-5777-1700 (代表)

テロメスキャンに関するオンコリスバイオファーマ株式会社との 共同研究契約締結のお知らせ

株式会社DNAチップ研究所（社長：的場 亮、本社：東京都港区）は、オンコリスバイオファーマ株式会社（本社：東京都港区 以下「オンコリスバイオファーマ」）が、がんの体外検査薬として開発を進めている OBP-401（テロメスキャン）について、去勢抵抗性前立腺がん（CRPC）治療薬のコンパニオン診断薬としての可能性を検討する共同研究契約をオンコリスバイオファーマと締結することを決定しましたので、お知らせいたします。

今回の共同研究は、テロメスキャンにより検出された血中循環がん細胞（CTC）から、アンドロゲン受容体バリエント（AR-V7）*を検出することで、CRPC に対する効果予測マーカーとしての応用可能性を検討することを目的としています。

現在、病期診断によるリスク分類が中間以上、又はリンパ節・遠隔転移がある前立腺がんの標準的治療法の一つとして、内分泌療法（ホルモン療法）が行われています。ホルモン療法は、治療が長期間継続すると、薬剤に対するがんの反応が弱くなり効果が弱まる（治療抵抗性）ことが知られています。これまでは、ホルモン療法に対し治療抵抗性を示す場合には、タキサン系の抗がん剤の投与が行われていましたが、経口抗アンドロゲン薬が臨床の場で使用可能になったことで、ホルモン療法の治療成績の向上が期待されています。そして同時に、これら新しいホルモン療法剤の適切な使用タイミングや患者選択が臨床現場の課題となってきました。

本研究では、テロメスキャンで検出された CTC から更に AR-V7 を検出することで、経口抗アンドロゲン薬の治療タイミングや患者選択においてテロメスキャンが有用な検査となる可能性を検討してまいります。

なお、本件による本年度業績への影響はございません。

以上

*アンドロゲン受容体バリエント（AR-V7）：新規ホルモン療法剤の効果予測マーカーとして近年注目されているアンドロゲン受容体バリエント 7（AR-V7）は、陽性の場合に前立腺がんがホルモン治療に対して治療抵抗性を示すことが明らかとなっています。